巻頭言

学会の分化と統合

岩月尚文*

今回第20回日本循環制御医学会の会長を仰せつかり，この6月に総会と学術集会をどうにか開催・終了しほっとしているところである．それにしても，関連学会の多いことには辟易とする．私の関連している麻酔学関係でも専門分野がどんどん細分化し，それぞれが独立，学会として次々と名乗りをあげている．これに研究会，地方会，さらに既存の学会を加えると，総数？幾つになるか．それら総てに真面目に（？）出席したとすると，どれだけの時間と費用が使われるか？より高度の研究を仲間同士でより深く時間をかけて討議しあう為に細分化したはずであるのに．学会に出席するためだけに，肝心の研究時間と研究費用が削られ，研究のじゃまをしている．また現実として，より詳細で優秀な研究は麻酔学会で発表し，細分化した方へは途中経過的なものとか症例的なものを回す傾向にある．またどの細分化された学会にも，回数を重ねる毎に，出席者は毎回同じ暇な？いわゆる上の人たちばかりが目立つ．何のための細分化であったのか．さらに研究情報は，メディアの発達した現在では学会出席ばかりでなく他の方法でいくらでも簡単に得られる．すなわち，細分化した学会の必要は更々ないと思われる．基本的には麻酔学会1本で，何ら都合悪いことはないはずである．そのため学会発表の機会が無くなるか，とは言えない．確かに発表可能な数は限定される．それでは発表を厳選すれば良いのであって，発表が厳選されれば，参加者も玉石混合の発表を聴取して時間を無駄にしなくてすむ．研究成果の公表は，学会発表にこだわる必要はない．それなりの研究者は，現在むしろ学会発表より英文論文発表の方を優先させている．研究の priority を取るために．残念ながら一度出来てしまったものを無くすのは至難の業である．先ずは，これ以上細分化した学会を増やさないこと．その上で，アポトーシス的に徐々に計画消滅させるしかない．そんなに勇気ある学会（関係者）は有るか？　巷の仲間内では“とにかく学会が多すぎるよ”と話題にはなるが，そこまでの議論である．約5年前にも同じような警告を文にしたが，その後も止まることなく増え続けてきている．学会自体を開催する事が経済的に困難な現在の事態も直視しなければならない．誰も積極的に学会を主催したがらなくなる．

今後必要な学会は，基本学会以外に，基本的学会を横につなぐ形をとる学際的性格を持つ学会である．異なる基本研究分野に属する研究者同士が，あるテーマについて意見を交わすには，あるテーマにつき研究会・学会を作るのが能率的であるのは明らかである．この日本循環制御医学会はその例であろうし，日本癌学会などはその代表格である．現在の生命科学の研究テーマの多くは，1つの基本学会には到底収まり得ない．分野の異なる研究者の能力の集積により，より良い研究が推進される．しかしこの様な学会の問題点はその運営にある．正にこの日本循環制御医学会が抱えている問題点そのものである．核になる学会と各々の学会間のバランス．学会を活性化するために中心学会ががんばり突出すると，元来自分たちの学会であるとの意識は希薄であるため，バランスの弱くなった学会からは人がこなくなってしまう．学際的色彩がだんだん薄れ，学会の力も弱くなる．学際的学会を強力に継続させる運営基盤の確立方法を考えていかなければならない．今後その様な学会が多数存続・発展することを期待したい．

*東北大学歯学部麻酔科

Presented by Medical*Online